

超高齢社会の主人公として

大阪市老人クラブ連合会 理事長 野口 一郎

新年あけましておめでとうございます。

皆さま方には健やかに新春をお迎えになられたことと心よりお慶び申し上げます。また、平素から大阪市老人クラブ連合会のさまざまな取り組みに対しまして、格別のご理解とご協力を賜っておりますことに深く感謝を申し上げます。

近年の高齢社会、情報化社会の進展に伴う高齢者就業率の上昇や趣味・活動の多様化などに加え、令和2年以來の新型コロナウイルスの感染拡大の影響による老人クラブ活動の自粛等も相まって、会員数の減少が続くなど、大老連はもとより老人クラブの運営は非常に厳しい状況にあります。

高齢者が国民の4人に1人を超えるという超高齢社会を迎える中で、高齢者も社会の一員として応分の負担を要請されるなど、我々を取り巻く環境も年々厳しい状況となっております。そういう時代だからこそ、高齢者が互いに支え合い励まし合いながら、スポーツや文化活動などの楽しみを共にし、心身ともに健康で長寿の喜びを実感できる人間関係の醸成が極めて大切であり、老人クラブがこの一端を担っております。

老人クラブが、引き続き、仲間づくり活動などを推進し、援助を必要とする人々への支援活動やコミュニティづくりの担い手として地域に貢献する活動に取り組んでいくためには、我々の組織基盤を安定させることが喫緊の課題であり、会員の増強や若手リーダーの育成に早急に取り組んでいく必要があります。

大阪市老人クラブ連合会は、各区老人クラブ連合会と連携し、会員の皆さんが地域に根ざしたさまざまな社会参加活動を通じて、人生の充実と長寿の喜びを分かちあえる豊かな社会づくりを進めてまいります。

終わりに、皆さま方のより一層のご支援とご協力をお願い申し上げますとともに、会員の皆さまのご健勝とご多幸をお祈り申し上げ、新年のごあいさつといたします。